

<授業実践2>「現代の国語」書くこと

1 単元名

「理数探究基礎」の発表内容を意見文にしよう

2 指導目標

(1) 単元の目標

・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解することができる。([知識及び技能]

(1)のオ)

・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うことができる。([知識及び技能] (2)のエ)

・目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができる。([思考力、判断力、表現力等] B「書くこと」の(1)のエ)

・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。([学びに向かう力、人間性等])

(2) 言語活動

ア 言語活動

「理数探究基礎」で実践した探究課題を、意見文の形で表現する活動。([思考力・判断力・表現力等]

B「書くこと」(2)のウを参照)

イ 言語活動のねらい

「書くこと」の指導事項については、本単元の前に、大岡信「言葉の力」、山崎正和「サイボーグとクローン人間」(『探求 現代の国語』桐原書店)を使用し、題材の設定から考えの形成、記述まで学習を終えている。よって、本単元では、「理数探究基礎」で実際に生徒自身が行った研究調査を根拠として意見文を書き、それを推敲することで、相手に伝わる説得力をもった意見文を書く力や、データを文章化する力を身に付けさせたい。

(3) 教材

ア 教材

※「現代の国語」で使用する教材

・「表現の手法5 意見文を書く」(『探求 現代の国語』桐原書店)

※「理数探究基礎」と共通で使用する教材

・マイナビキャリア甲子園2023年度練習教材一式(株式会社マイナビ提供)

(「駅前に素敵なお店を作ろう」「オリジナル校則を作ろう」「小学校にオリジナル科目を作ろう」の中から班で選択する。「理数探究基礎」の授業では各班で情報収集を行い、3学期に提案内容をプレゼンテーションする予定である。)

イ 教材観

生徒はまとまった量の文章を書く経験が薄く、苦手意識をもっている生徒が多い。意見文の型を提示することである程度は心理的な負担を軽減しつつ、ふだんの言葉遣いとは異なることを意識して使用させたい。

(4) 主体的・対話的で深い学びの工夫

今回の活動では、「理数探究基礎」で行ったグループ活動を題材にすることで、同じ題材の生徒と助け合えるようにした。文章を推敲し合う活動により、各自の文章を振り返って行いたい。

3 観点別学習状況の評価

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現（書くこと）	主体的に学習に取り組む態度
文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。	「書くこと」において、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。	学習の見通しをもって、意図が相手に伝わるかどうか読み手からの助言を踏まえて推敲し、書き直す活動を通して、自分の考えが伝わるよう、粘り強く構成や表現を工夫しようとしている。

(2) 評価方法

ア 知識・技能

定期考査における記述問題によって評価する。

イ 思考・判断・表現（書くこと）

ワークシート2の記述によって評価する。

	評価A	評価B	評価C
読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直している。	読み手の指摘を踏まえ、具体的な箇所に着目しながら、自分の文章の特長を捉え、説得力のある意見文を書くための課題を記述している。	自分の文章の特長を捉え、分かりやすい意見文を書くための課題を記述している。	意見文を書くための課題を記述している。

ウ 主体的に学習に取り組む態度

ワークシート2の記述などによって評価する。

	評価A	評価B	評価C
粘り強く推敲に取り組もうとしている (α)。	/	指摘された推敲箇所について検討し、文章を再度書き直している。	指摘された推敲箇所について検討している。
自分の文章の課題を捉え直そうとしている (β)。	読み手の指摘を踏まえ、具体的な箇所に着目しながら、自分の文章の特長を捉え、説得力のある意見文を書くための課題を立てようとしている。	自分の文章の特長を捉え、分かりやすい意見文を書くための課題を立てようとしている。	意見文を書くための課題を立てようとしている。

※ $\alpha \cdot \beta$ は、それぞれ「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」とする。

4 単元の指導計画（配当3時間）

※「理数探究基礎」の授業において、マイナビキャリア甲子園導入教材を利用し、各班で課題を選び、調査研究活動を実施している。情報収集が終わった段階で、「理数探究基礎」でプレゼンテーションの準備を行うと同時に「現代の国語」で「意見文を書く」単元に取り組む。

次／時間	学習活動	言語活動における指導上の留意点 *生徒への支援の手だて	評価上の留意点 ◇観点□点検・確認■分析 *「努力を要する状況」と評価した生徒への支援の手だて
第1次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 「表現の手法5 意見文を書く」を読み、意見文の型を学ぶ。 ワークシート1「校正確認メモ」に、「理数探究基礎」で設定した「課題」と、それを解決するための「提案（意見）」を記入する。 「提案（意見）」の根拠となるデータを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの書く活動を振り返り、教科書の例文を参考に、説得力のある効果的な文章の構成を復習させる。 「理数探究基礎」で実施しているプレゼンテーションの資料を適宜参照させる。 取り組んだことを全て詰め込む報告書を書くのではなく、相手に自分の意見や提案を納得させるための材料を抽出させる。 *同じ探究班の生徒と相談させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇（思） □「行動の観察」 *教科書の「ポイント」部分に着目させる。
第2次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 文章構成を考える。 「提案（意見）」の根拠となるデータを意見文の形に書き換える。 タブレット端末を利用し、各自で Microsoft Word（以下 Word）を用いて意見文を書く。 作成した意見文をクラウド上に提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料「意見文提出のルール」を配付し、作成に関する注意事項を伝える。 これまでの「書くこと」の学習で注意したことを踏まえて書く。 *基本は個人作業だが、つまづいている生徒には同じ探究班の生徒と相談させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇（思） □「記述の点検」（意見文） *前単元で学習したパラグラフライティングなどを用いるよう助言する。
第3次	<ul style="list-style-type: none"> 意見文を交換して読む。分かりにくかった部分などを指摘し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み手の生徒は推敲した方がよいところには下線を引き、ワークシート2「推敲用シート」にコメントを書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇（思）（態） ■「記述の分析」（推敲後の意見文・推敲用ワークシート）

(1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・意見をもとに自分の文章の特長を捉え、意見文を書き直す。 ・書き直したものを再度提出する(任意とし、完了した者のみ提出可)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手元に戻ってきたワークシートを見て、生徒は自分の文章の特長を捉え直して書き込む。 ・コメントをもとに意見文を書き直す。 <p>*場合に応じて同じ探究班の生徒と相談する。</p>	<p>*教科書に掲載されている「文章の推敲」四つの観点を確認させる。前単元で使用した文章校正ワークを見直させる。</p>
-------	---	--	--

5 本時の指導計画

(1) 本時の具体的な目標

読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直すことができる。

(2) 本時の具体的な評価規準

読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直している。

(3) 本時(3時/3時間)の指導計画

学習段階	学習内容	学習活動	言語活動における指導上の留意点
導入 (5分)	・本時の学習内容を知る。	①単元の目標と言語活動について確認する。	①ワークシート2「推敲用シート」を基に推敲し合うことを伝える。
展開 (40分)	<ul style="list-style-type: none"> ・意見文を交換して読む。 ※タブレットに意見文を表示させたものか、提出された意見文を印刷したものを用意する。 ・指摘された箇所を読み、グループ内で話し合う。 ・自分の文章の特長を考える。 ・意見文を推敲し、書き直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ②クラスで3人グループを作成し、提出された意見文を回し読みする。 ③ワークシート2「推敲用シート」のチェックリストに従い、相互に読み合う。推敲した方がよいところには下線を引き、推敲用ワークシートにコメントを書き込む。 ④2名から指摘された箇所を読み、グループで推敲箇所について確認する。 ⑤ワークシート2「推敲用シート」の下部に、自分の文章の特長、今後同じ活動をする際に気を付けたいことを考えて記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ②交換する相手が「理数探究基礎」の班員にならないようにする。できれば自分の班とは別のテーマで探究している生徒になるようにする。 ③推敲することがないという生徒(初稿段階でよくできている生徒)のものは、教員が読んでチェックする。ただし、よかった点のコメントは生徒に記入させる。

終結 (5分)	・意見文を推敲し、書き直す。	⑥新しい単元に入ることを確認する。	■ワークシート2を回収し、ループリックを用いて「記述の分析」により評価する。
------------	----------------	-------------------	--

6 研究の実際と考察

(1) 意見文を書く活動に関して

これまで授業内で「書くこと」の活動を行う際、ある程度の量がある文章を書こうとすると、内容を考える段階に時間が取られることが多くなるため、解消できないかと考えていた。本単元では「理数探究基礎」の授業内で時間を取って意見（主張）の形成を行っており、「現代の国語」では意見文を書く活動に限定したため、説明後すぐに書く活動に入ることができた。しかし、Wordやタブレット端末の使用技能について生徒間で差があり、指導の中心になるはずの、書くことの指導以外に時間がとられた場面もあった（なお、本校では「情報」の履修は2年次である）。

(2) 意見文に関して

細かい注意事項を配付したが、段落の数や構成など、見本を逸脱した生徒もクラスに数名見られた。内容に関しても、主張や論拠を書く段落において、次のような問題がある文章が散見された。

- ・意見文の形になってはいるが、「理数探究基礎」で求められた提案を記述していないもの。例えば「新しい校則を作ろう」がテーマの班で、新しい校則を具体的に提案せず、「校則は生徒の自主性を育てるべき」という意見を書いている、など。
- ・個人の主観や感覚的なものを根拠として書いているもの。また、収集した情報を適切に数値化できていないもの。教科書所収の「意見文を書く」に掲載されている見本の根拠が、数値を用いたものではなかったことが影響しているのではないと思われる。
- ・そもそも根拠として成立しない情報や、適切ではない収集方法で入手した一次情報を提示しているもの。

探究活動で取り扱う情報については、「現代の国語」でも、教科書所収の「問いの立て方とオリジナリティ」（上野千鶴子）を用いて指導していたが、「理数探究基礎」の活動とも並行し、継続的に指導する必要を感じた。

(3) 推敲活動に関して

推敲の項目として「内容」の部分に関しては、うまくいかない部分があった。上記(2)でも触れたが、こちらが想定していたものから外れた内容を書く生徒が多かったこと、生徒自身の推敲する力（与えられた課題と意見文に書かれた内容の距離を測る力）が不足していたことが主な理由である。しかし、「構成」「表現」分野に関しては、「書くこと」の単元で繰り返し指導をしてきたためか、ある程度指摘することができていた。違和感のある文の指摘にとどまり、ワークシート2では「どう書き直せばよいか」という指摘までは至っていないものが多数であったが、第3次の授業時間の終わりに、互いに相談し合う姿が見られた。

(4) 評価について

本単元において、「思考・判断・表現」の評価と、「主体的に学習に取り組む態度」の「自らの学習を調整しようとする側面」はワークシート2の下部の記述において同時に評価できるものとして評価を行った。これは本単元の活動の主眼を「自分の文章の特長や課題を捉え直す」ことにおいているため、同一項目で同時に評価できると判断したためである。生徒の意見文自体は評価の対象としなかった。

繰り返しになるが、表現する内容そのものに関して問題があったため、実際の評価の場面では、ループリックに基づいて想定していた具体的な基準を多少見直す必要に迫られた。実際には「構成」「表現」

については自分の文章を捉え直すことができていた生徒について、「思考・判断・表現」の評価をB評価とすることとした。

以下は評価の対象としたワークシート2の記述である。(下線は授業者)

【生徒ア】

一文が長くて分かりにくいっぽい。かぎ括弧や句点をもっとふんだんに使うことで頭に入っていくやすい文になると思ったので、推敲のときに気を付けたい。

【生徒イ】

「～考える」という文末が最後の方に多く、変な感じがしてしまうから、文末を変えたりして読み手が違和感がないように推敲できるとよいと思った。最後に改行をしてしまって、推敲してくれた子にも質問されたから、見て分かるようなミスはしっかりと直して文を完成できるようにする。今回はなかったけれど、常体と敬体が混ざってしまったり、言葉を省略してしまったりすることはよくあることだと思うから、今後推敲するときは、そこも注意していきたい。

【生徒ウ】

文章を読むとき、漢字ミスは1回で気付きたい。一文一文しっかりと読み、「話し言葉」「」、「主語と述語」など気付きにくいところを見落とさないようにしたい。

上記のように、他の生徒からのコメントに基づき、具体的に気を付けたいところを述べている生徒をB評価とした。この他、「パラグラフライティングを意識したい」「問いかけの文を多用して逆に分かりにくくなってしまった」など、これまでの単元で行った活動を踏まえて書く生徒や、「データを複数もってきて強い根拠にしたい」「関連性のあるデータをもってきたつもりだったが問題と直結していなかった」など、情報の扱い方の反省を記入する生徒もいた。「自分は分かっているつもりでも、他の人が見ると分かりにくいことを意識できた」「伝えたいことが読み手に伝わらないことがあると気付いた」という記述も多かった。

また、B評価に達した生徒のうち、以下の生徒エ、オのように、「説得力のある意見文を書くための課題」として、実際に文章を書き始める前の段階で注意したい点に言及している生徒をA評価とした。

【生徒エ】

字数配分が適切でなかったため、書いているうちに、あの根拠を追加しよう、あのデータも入れようとどんどん増やしていってしまい、後の段落の方が字数が多くなってしまいました。よって、まずどの根拠を入れるかしっかりと決めてから書き始めようと思いました。

【生徒オ】

データに数値がないところが欠点だと思った。分かりやすく伝えるために引用や根拠が主張に合っているか文章に一貫性があるか推敲し、気を付けたい。自分の文の特徴は、文章量が少ない、予測で書いてしまう、結論を書かず察してもらうような文章になっていることである。自分も書いていて「この文章を入れたい」と思うことがあるが、どのように接続詞をつなげばよいか分からず、はしょってしまうことがあるので、ある程度流れを考え、主張を整理してから書き始めたい。

生徒オは、一年間を通して書く活動に苦手意識を感じている様子が見て取れた生徒である。今回の課題でも、書き上がった意見文に関しては修正すべき点が多々あったが、「ワークシート2」の記述において、文章全体の組み立て方を振り返ることができていると見て取れたため、本単元ではA評価とした。

C評価としたものは、「見直しをしっかりとる」のみで具体的な箇所と言及できていないもの、段落構成の不備をタブレットの仕様を理由としているものなどである。

推敲活動を踏まえて、書き直した意見文の提出は任意とした。第3次の授業内でほとんど書き直しの時間をとることはできなかったが、最終的に書き直した意見文を提出した生徒は40人クラスで5～8人程度であった。ワークシート2の記述内容と書き直した意見文の提出状況から、「主体的に学習に取り組む態度」を総合的に評価した。

7 研究の成果と課題

今回は「現代の国語」の授業担当者が2名とも該当学年の「理数探究基礎」の授業担当者であったため、「理数探究基礎」の指導を踏まえた授業を混乱なく行うことができた。しかし、そうでない場合は、意見文の完成形のイメージを共有して学年でそろって授業を展開していくことが難しかっただろう。また、「理数探究基礎」の進行状況に大きく左右されるため、書き上がった内容も班により大きな差があった。探究活動がうまくいっていない班については、書く前段階のワークシート1の記入が困難な生徒もいた。今回の単元の主眼である推敲活動に大きく関わるため、実施の時期については再検討が必要である。

ただ、「理数探究基礎」の担当者として書き上がった意見文を見てみると、うまくいっているように見えていた班が、実際は課題の理解ができていなかったり、適切に情報を取り扱えていなかったりするなどの問題を抱えていることが分かった。他教科の活動内容と関連させるのは大変であったが、生徒の学びを総合的に見ていくことに大きな利点を感じたため、機会があれば再度取り組みたい。

1年間の締めくくりとして行った活動であるが、本単元までに行った「書く活動」と比較し、文章量が多く取り組みにくい課題であった。生徒の実態に応じ、書く文章の分量を調整して適切な言語活動を実施していきたい。

利用者のニーズ

1年〇組 〇〇 〇〇 (〇班)

名古屋鉄道犬山線『布袋駅』を耳にしたことはあるだろうか。2023年に高架下開発、いわゆるリニューアルが施され、周辺には親子の交流の場となる子育て支援センターや一般企業も多く存在する利用率の高い駅だ。しかし、布袋駅の利用者に話を聞くとその不完全さが見えてきた。どうやら、先ほどの建物に向かう子連れが交流の際に食べられる物の販売や、ゆっくりできる飲食店が足りていないようなのだ。また、家や会社の最寄り駅が布袋駅という人達からは、サッと朝買っていける物がないと聞く。そこで私たちは、布袋駅には利用者が欲するテイクアウトの役割も担いのびのびとした飲食店が必要なのではないかと考えた。

「理数探求基礎」〇組〇班では、布袋駅を週3回以上利用する人々に『布袋駅に満足しているか』のアンケートを実施した。すると半数以上もが「いいえ」と回答したのだ。なぜ、一新され万事順調に見える布袋駅に利用者達は不充実さを感じるのだろうか。その答えは、先程の飲食販売の少なさにある。先述したように『子育て支援センターに向かい、他の親子と交流するときに片手間に食べられる物』や『朝の通勤途中ついでに買えるその日の昼食』、そうした食べ物の販売店が足りていない、子供を連れてのんびりできる飲食店がない、というのだ。そこで私たちはこの問題を一举に解決するべく、その人たちのニーズに合ったパン屋を作ろう、と考えた。パン屋を選んだ理由としては、パンという選びやすく、時間が経っても食べやすい・片手で食べられるものを販売することでいわゆるおやつやちょっとした腹の満たし、その日の朝食や昼食などを手助けできるからだ。また、『一緒に食事をすれば仲よくなる』という心理学の話がある。食事をともにすることで人間性を知り、親近感を感じることができるというものだ。私たちはこの店の中にイートインスペースを作ることこの心理的作用を利用したいとも考える。上記にもある通り、親子の交流の場、つまり親子の多いこの布袋駅周辺に食事を完結できる建物を建てることで親子の手助けになるのは間違いないだろう。更にキッズスペースがあったり、DVDが見られたりすると親同士・子同士の交流の場を新たに設けることができる。加えてパンはご飯よりも含まれる栄養価が高く、子供の発育にもいいとされている。

子供の頃、親、友達、友達の親らとランチに行った記憶はあるだろうか。友達と一緒にキッズスペースで遊んだりアニメを見たりしている時間は、親たちにとっても息抜きの時間なのではないか。反対にそれらの設備がない場合、かえって苦勞するという親が多い。

このように子連れ達にとっての交流や利便性のよさを重視しつつ、テイクアウトなど他の層にとっての利便性も兼ね備えた場所こそが今の布袋駅にとって必要な場所なのではないか。以上の点から、私は布袋駅の周辺にパン屋を作るのが望ましいと考える。

タイムマネジメント

1年〇組 〇〇 〇〇 (〇班)

スマートフォンの普及が進む世の中では、今後のスマートフォン所持率も増加していく一方だと考えられる。今や、小学生もスマートフォンを持つ時代となった。SNSやゲームアプリなどの魅力が多いスマートフォンに時間を取られ、適切な時間の使い方が分からなくなっている小学生も一定数いるのではないだろうか。そこで私は小学校に「タイムマネジメント」という授業を導入することを考えた。

私の理数探究班では、インターネット上で小学生のスマートフォン所持率を調べた。

調べた結果、小学校低学年では20%弱、高学年では35%弱スマートフォンを持っていることが分かった。中学校に入学すれば、交友関係が広まるのはもちろん、スマートフォンを持っている人数も多くなる。LINEなどを用いた友人との会話も増えたり、Instagram、TikTokなどの娯楽アプリなどを使用する子供も増えたりと、携帯に時間を吸い取られてしまうことで、睡眠時間が削られ授業中に寝てしまうなどの勉強面へ悪影響を及ぼしてしまう可能性がある。そして、小学生という幼い頃から意識して生活することによって癖が付き、高校、大学の受験勉強や文武両道を実現することにも役立つのではないかと。よって、中学校に上がる前、つまり小学校の間に適切な時間の使い方を学ぶ必要性が高まってきていると考える。

また、少子高齢化が進む世の中では、現在の子供世代が社会人になったときの一人当たりの負担が大きくなると考えられている。社会に出たときの生産性を向上させるには、適切な時間の使い方を学んでおく必要があるはずだ。

このように、勉強に対する姿勢や将来の生産性を考えたときに、小学生のときから適切な時間の使い方を学び、身に着ける必要があるのではないかと。

以上の点から、私は小学校に「タイムマネジメント」という授業を導入することがよいと考える。